令和５年度 第１回学校運営協議会議事録概要

日時 令和５年６月27日 15：30～17：00

場所 大阪府立堺工科高校 会議室

１．開会のあいさつ（校長）

２．出席者・自己紹介（委員・事務局）

大阪公立大学教授 土井 智晴　　大阪工業大学教授 皆川 健太郎

株式会社ダイネツ係長 西尾 真由美　　大仙連合こども会 玉城 優

堺市陵西中学校長 村田 政教　　堺工科高等学校 PTA 会長 中村 弥生

堺工科高等学校教員　東 秀行（校長）・佐藤 義勝（教頭）・義永 高徳（事務部長）・小寺 雅仁・堀江 拓史・安井 隆嘉之・瀧澤 縁・阪本 雅一・伊豆田 展弘・真田 正樹・吉井 恭平・小山 卓哉・桂 拓也・木村 唯那

令和５年度新任委員

堺工科高等学校 PTA 会長 中村 弥生 委員

３．委嘱状伝達

４．会長・副会長選出

会長：皆川 健太郎 委員　副会長：大阪公立大学 土井 智晴 委員

５．報告

（１）学校経営計画等について

ア　中期的目標（校長）

・基礎学力やコミュニケーション能力、規範意識、自立できる生徒の育成をめざす。

・基本的生活習慣の工場の定着を図る。

数値目標（昨年度から変更）　年間遅刻件数５回以上の生徒の割合 20%以下。

・就職内定率 100%維持。

・資格取得の取り組みの一層の活性化を図る。

・インターネット、メディア、イベントなどを活用したより効果的な広報活動の一層の推進を図る。

・出前授業やワークショップで、魅力の発信。

・教職員の残業時間月 45 時間以内に収まるよう、軽減負担を図る。

（意見：・資格取得に関して保護者へ情報発信できていない。HP では伝わらない。

・遅刻の指標について、月５回以上遅刻してからの指導では、年間計画を達成できない。見直した方が良い。）

イ　本年度の取組内容（首席）

・基本的には、今まで取り組んできたことを継続していく。

・基礎学力の向上に努める。（朝学、習熟度別、少人数指導等）

・企業連携により、専門教育の充実を図る。

・資格取得、各種技能コンテスト等にも挑戦し続ける。

・３系合同の課題研究を実施。（堺市 SDGs プラットフォームに加入。企業と連携。）

・工業教育の魅力発信。（出前授業、ものづくりイベント、インフルエンサー事業等）

・主体的対話的で深い学び。（アクティブラーニング、１人１台端末活用）

・校内研修（ミドルリーダーの育成、各系の技術技能研修）

（２）教科書採択について（教頭）

（３）定時制の課程　学校経営計画について（教頭）

６．意見交換（各委員）

①工科高校をより理解してもらうための方策について

・工科高校の持っている技術・技能で、困っているところを支援することによって、学校のＰＲにもつながる。

・本校の魅力を保護者に理解してもらう。例えば独自で保護者説明会を開く等。

・ＨＰで情報発信しても、ＨＰを見に来てもらえない。ＨＰは限界がある。

・保護者への連絡は、手紙よりメール配信で確実に届く。メールが届いたらそこからＨＰにもいくようになる。こういうのを活用できないか。

・中学校でも添付文書を付けられる保護者連絡ソフトを導入したことで好評。
ただし、アンケートの回収率は高校と同じように下がった。

・中学校では、ほとんど遅刻がないため遅刻という指標を外した。堺工も８割の生徒が遅刻していないのなら、その８割の生徒の新たな指標を作った方が良いのでは。中学校の例では、家庭学習の時間という指標により生活習慣がどれぐらい向上しているのかを見ている。遅刻の指標はあまり意味がないのでは。

・アンケートで QR コードにより参加するのはわかりやすい。併せてメールで周知することによって、より分かりやすくなる。

・体験入学・見学会をもっと大々的に活用できれば、宣伝になる。就職率、資格取得など、もっとアピールできれば良いと感じている。

・まずテンション（注意を払ってもらい）、次に興味、そして欲求。そのステージステージで有効なコミュニケーションを図っていく。最初はキャッチーなコピーで、続きは QR コード等で HP に入り細かな情報が入手できる、といったようなことをうまく構築することで志願者にもつながるのでは。

・生徒にとって、就職というのがあまりアピールにならない気がする。こてこての現場のイメージというより、軽いスマートファクトリーのようなイメージを描かせてあげるのは大事なことと思う。

・公立高校は、体験にしても説明会にしても、スタートが遅い。私学は GW 明けからどんどん行っている。9 月以降にやると複数の高校が同じように重なってしまい、全部行けなくなる。公立は早くならないので、中学校では２年生から説明会に行ってくれと言っている。が、２年生は対象外もある。また中学校の進学説明会は３学年同時にやっている。
・工科高校は中退者が少ない。普通科が圧倒的に多い。それだけ真剣に進路を考えて進んでいる。資格も多く取っている。だから、志願者抑制についてはもう十分だと思う。今やっている取り組みが維持できれば良い。志願者が多い学校は別の理由で高い。
・これは高校だけの問題ではなく、中学校側の問題でもある。どんな進路指導をするかは、中高連携して考えなければならない。

７．事務連絡（教頭）
　第二回の日程　11 月 29 日（水）予定

８．閉会の挨拶（校長）

16 時 55 分終了